

法人名	社会福祉法人あおぞら
施設名	あおぞら第2保育園

発表者名 (職名)	河村 聡子 (看護師)	住所	横浜市神奈川区六角橋2-34-8		
発表者名 (職名)	梅村 幸奈 (保育士)	TEL	045-413-1114	FAX	045-413-0968
		メールアドレス	aozora2@pluto.plala.or.jp		
		URL	http://www.aozoranewstyle.com		
		定員	60名	職員数	50名

発表の概要・内容

あおぞら第2保育園は横浜市のほぼ中央、神奈川区の住宅街にある民間保育園です。社会福祉法人あおぞらは1955年、地域の母親たちの要求から生まれた共同保育の精神を受け継ぎ『保育は幼児教育である』として子ども一人ひとりの全面発達を保障しており、現在は、横浜市内で4園を運営しています。



2020年4月7日緊急事態宣言が発出されました。保育は、三密にならざるを得ない環境ですが、厚生労働省や横浜市の通知に基づいて、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとりながら、保育を行ってきました。2020年度70名の園児が在籍、登園自粛要請がでた4月後半から5月にかけては半分以下の登園となりました。密にならないように人数を調整し、異年齢の合同保育を取り入れながら、友だちと遊ぶ楽しさを味わえるようにしていくとともに、ゆったりと過ごすことができたことで、より信頼関係を結ぶことができました。自粛中の家庭には、行事や生活等の変更は手紙とマチコミメールでお知らせし、電話で近況を聞くなど丁寧に対応していきました。入園式もできず、登園もほとんどできていない0歳児クラスには、クラス通信をマチコミメールで発信し、園と家庭とのつながりの工夫をしていきました。

6月、5歳児全員が登園。例年6月中旬に行っている合宿（お泊り保育）をどうしていくか。仲間が集まって喜びが全身からあふれている子どもたちの姿をみて、“コロナだからいつもやっていることができない合宿ではなく、今できることを考えよう”と職員で話し合い、父母の会とも相談し、1か月遅れで開催しました。

10月の運動会は、子どもたちにとって、安心安全で、“今できる最善は何か”を夏から何度も繰り返し話し合いを重ねていきました。日々、新型コロナウイルス感染症の状況も変化する中で「園児全員、保護者の参観もできるのではないか」「心配な家庭が一人でもいたら、難しいのではないか」等、話し合いが平行線で終わることも多く、方法が見いだせない時期が続きました。時間をかけて、職員一人ひとりが思いを出し合う中で、どの職員も“できる限り皆でやりたい！子どもの成長をみんなで見守り喜び合うことを大切にしたい！”という思いは一致していることがわかり、参観方法や各年齢の発達を考え、種目の見直しをしながら、時間短縮を検討しました。決定した開催方法は父母にも一つひとつ丁寧に伝えていきました。結果、乳児、幼児の開催を分けて、別日で行い、父母の参観は幼児のみとなりましたが、“子どもの様子や成長を喜び合う”ねらいを達成するために、子どものがんばり、葛藤を乗り越えた姿、クラスの仲間との関係も含め、運動会ニュース、クラス通信にて写真や文章で詳しく伝え、送迎時に父母に直接話していったことで、今できる形での“みんなで子どもの成長を喜び合える運動会”となりました。

あおぞら第2保育園は、2020年12月で開園20年を迎えました。これからも、子どもを真ん中に父母・地域・職員皆で手をつなぎながら、地域に根差した保育を行っていきたいと思います。また、コロナ禍ではありますが「子どもにとってより良い保育」をもとに、職員同士話し合いを大切に、今できる最善を尽くしていきたいと思います。

メモ